

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大宮区大成町2丁目計画	階数	地上7F
建設地	埼玉県さいたま市大宮区大成町2丁目	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	300人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年11月8日
敷地面積	2,975 m ²	作成者	長谷清志
建築面積	1,256 m ²	確認日	2019年11月8日
延床面積	6,130 m ²	確認者	長谷清志



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 71%
 ③上記+②以外の 71%
 ④上記+ 71%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネ等、隣接地及び周辺地域の環境に配慮した計画とする。		
Q1 室内環境 近年注目される省エネなどの環境意識に配慮し、品確法上における断熱性能等級3を確保する計画とした。	Q2 サービス性能 十分な配管スペースを計画可能とするため、階高2.86mを設定。	Q3 室外環境 (敷地内) 住宅や団地、公園のある街並みを考慮し、外壁の基本色をベージュ系とし温かみのある外観を計画。
LR1 エネルギー 前述であるが、断熱性能等級3を確保する計画とし、比較的高い省エネ化を図る。	LR2 資源・マテリアル 外部において、石綿剤、クロルビリス、ホルムアルデヒド等の衛生上の支障を生ずる恐れがある建築材料は使用せず、かつ室内の化学物質対策としてJISホルムアルデヒド放出量性能値F☆☆☆☆を仕様する計画。	LR3 敷地外環境 住宅街の中に集合住宅を計画することから、適切に植栽計画を進めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)大宮区大成町2丁目計画



欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							3.1
Q1 室内環境			0.40		-		3.2		
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00		3.0		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50				
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00		3.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63				
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境		2.6	0.25	3.0	1.00		2.9		
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.0	0.30				
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		3.0	0.25	4.3	1.00		4.2		
4.1 発生源対策		3.0	0.60	5.0	0.63				
1 化学汚染物質	建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全体的に採用している。さらにホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。	3.0	1.00	5.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38				
1 換気量		-	-	3.0	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/8以上1/6以下の開閉可能な窓を確保している。	-	-	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	1.00	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.4		
1 機能性		3.6	0.40	4.2	1.00		4.1		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	IG対応としている。	-	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.0	0.40				
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画	3項目に該当している。	4.0	1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	維持管理がしやすいように素材を選び、設計を行っている。	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	維持管理がしやすいように設計を行っている。	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-		3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	性能評価で等級3を取っている。	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			2.7	0.30	2.8	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.7	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.25	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.25	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.13	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.13	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.25	-	-	
6	バックアップスペースの確保		-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.97	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	1.00	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			-	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		壁紙用接着剤、フローリングボード用接着剤、シーリング材	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2概算値 排出率71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	評価ポイントが3ポイント	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストを満たしている項目が16項目中5項目である。	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	